

# 日本の美邸

## JAPAN QUALITY

Vol.5

特集

# 住まいの品性

論・泉 幸甫

作庭家・古川三盛の世界

久右衛門屋敷の茶事

益子義弘 / 益子アトリエ

ホテリ・アアルト

Art&Culture

松葉孝夫

珠洲焼・篠原 敬

日動画廊・長谷川智恵子

世界に発信する日本の美邸12例

泉 幸甫

定方三将

積水ハウス

藤井 章

八島正年+八島夕子

丸山 弾

高野保光

住友林業

kisetsu

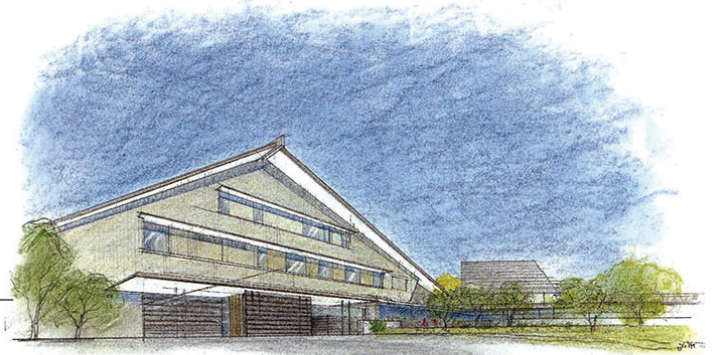
中山大介

横内敏人

出江 潤

竹原義二 / 無有建築工房

商店街HOTEL講 大津百町

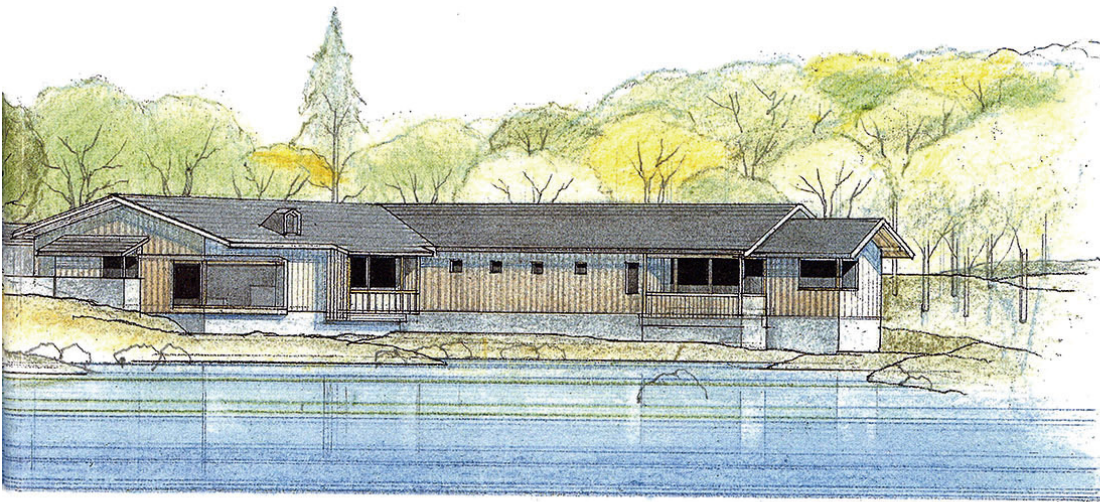


既存の骨格とシルエットを引き継ぎ、  
水平を基調にした窓構成で整えた本館外観。

# ・アアルト

Essay : HOTELLI aalto

文・絵=益子義弘 Text, Sketch : Yoshihiro Masuko



## 設計の記

五色沼をはじめ多彩な小湖沼群が点在する福島県磐梯山の、中腹に建つホテルである。オープンして早10年の時が経つ。

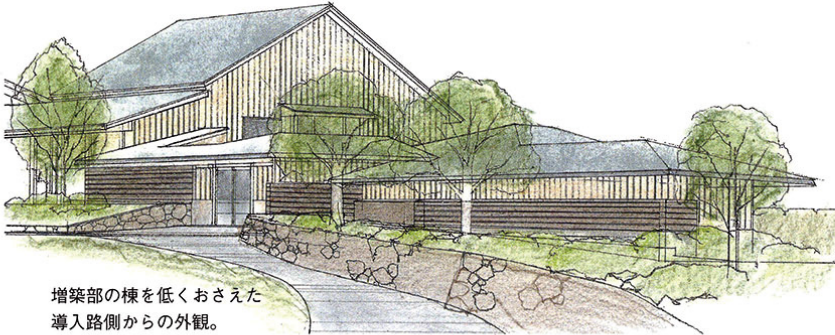
最初の計画が完成して2年目に東日本大震災が起き、施設に大きな損傷はなかったものの、この一帯もしばらくは閑古鳥の鳴くような日々が続いた。でもさいわいに多くの再訪される方たちにも支えられて運営が続き、少しずつ評判も上向いて今回の第二期計画の時を迎えることができた。

最初の取り組みは、築35年を経た某市の保養施設をオーナーが引き取り、まだ十分に持続可能な骨格を生かして新たな空間に読み替え、レストランなど新たな施設を加えてホテルに蘇生させたものである。既存の木造の骨組をできるだけ変えぬことを基本の方針としてホテルに向くプランを解き、その結果13の客室はすべて異なる間取りとなった。これに今回の増築で新たに四つの客室といくらかの共用部を加えた。

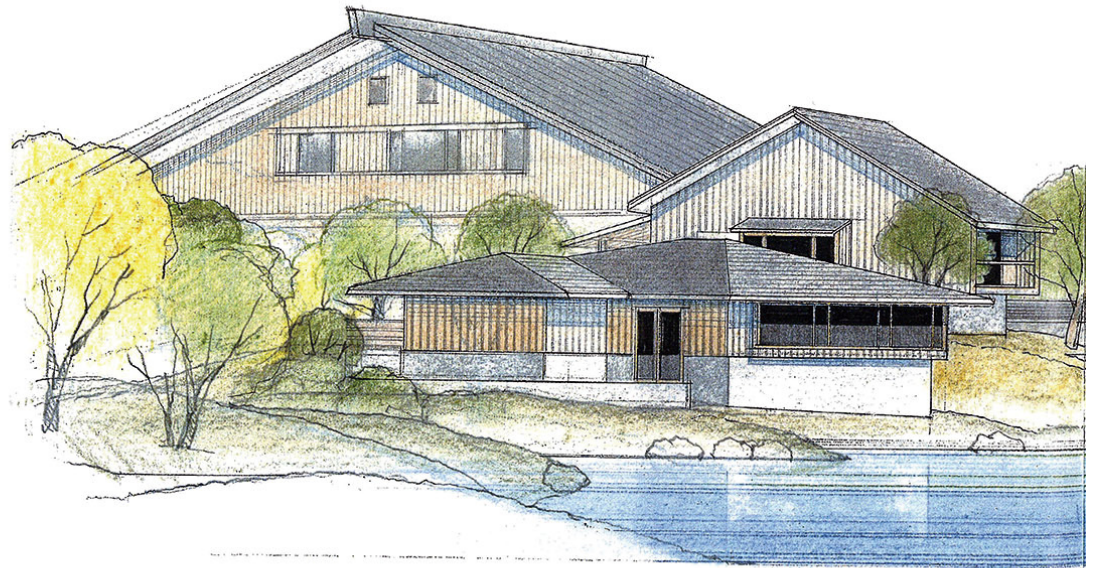
ホテルはひと時の安らぎの場である。これまで長く住まいの設計にも関わり、人々の安息の居場所

# 論

# ホテル



増築部の棟を低くおさえた  
導入路側からの外観。



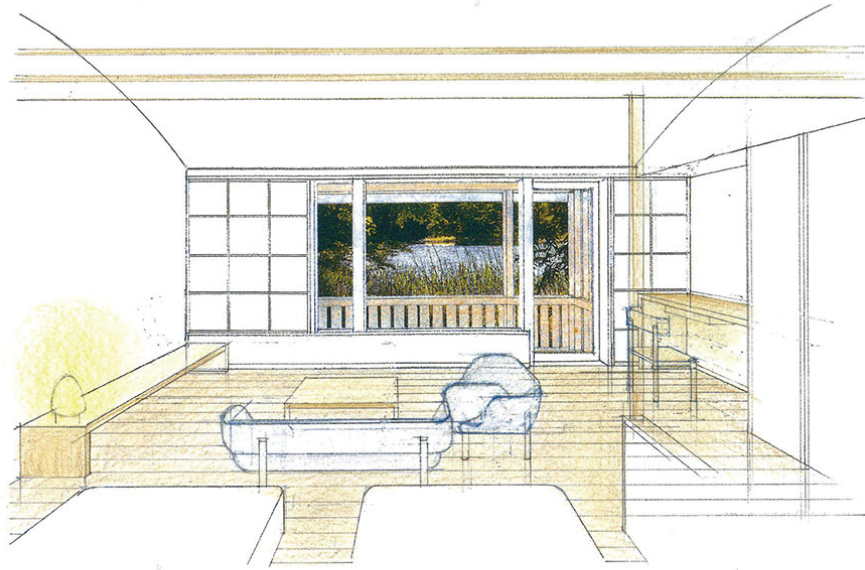
湖沼に沿う増築棟と全体構成のスケッチ。

のありようについていつも思いを巡らせてきた。住まいもホテルも居心地の充足を設計の第一の重点とすることに変わりはない。ただ住まいが長く続く日々の場であるのに対して、ホテルや宿は日常を離れてひと時を楽しむ短期の過ごしの場合だ。そこにいくらかの違いはある。

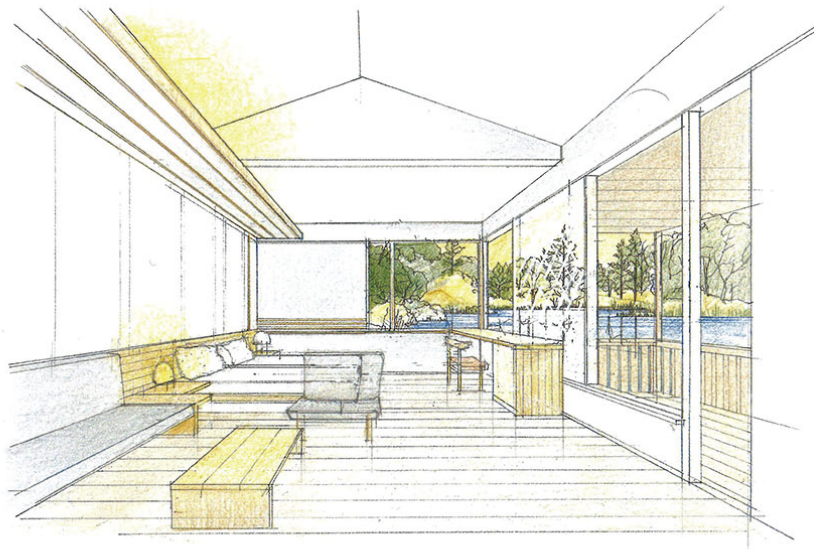
ただこのホテルの設計にあたっては、あえて非日常の世界をその構成に求めることを避け、むしろデザインを際立たせず、一帯の環境と呼吸し合う自然な安らぎの空気をいかに生み出せるかを設計の主眼においた。今回の増築計画においても、もとの自然地形に寄り添いながら環境をできるだけ変えることなく、その一帯の風景に潜む特色を滞在する方たちの視野や心の経験に深く結ぶ場となるよう心がけた。

## 場所を読み解き、 風景を人たちの 経験に結ぶ

前文の末尾に記したように、この設計の過程でいつも伏線のように頭を占めていたのは、個々のデザイン以前に、建築の空間がここ



湖沼に面した客室102。



客室105のしつらえ検討スケッチ。

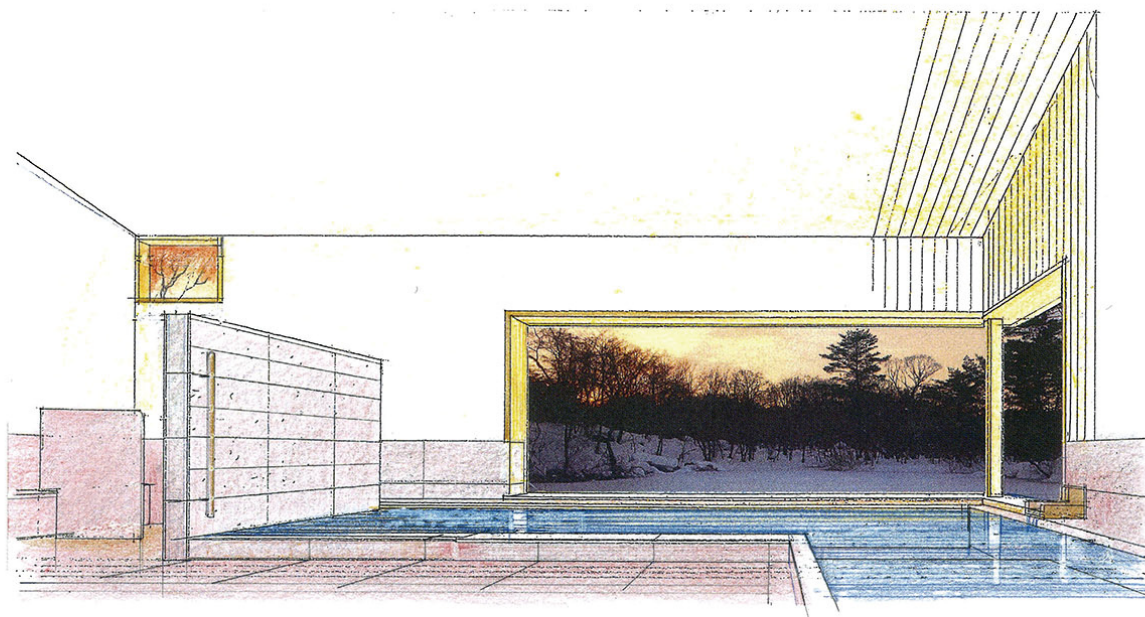
を訪れる人たちと一帯の環境とを  
いかに深く結ぶ働きを持つこ  
とができるかについてだった。

周辺は豊かな自然に恵まれてい  
る。磐梯山や吾妻連峰への遠望、  
囲む深い森の緑、またこの敷地内  
にも二つの澄んだ小湖沼がある。  
その豊かさは戸外の散策で十分に  
味わえる。

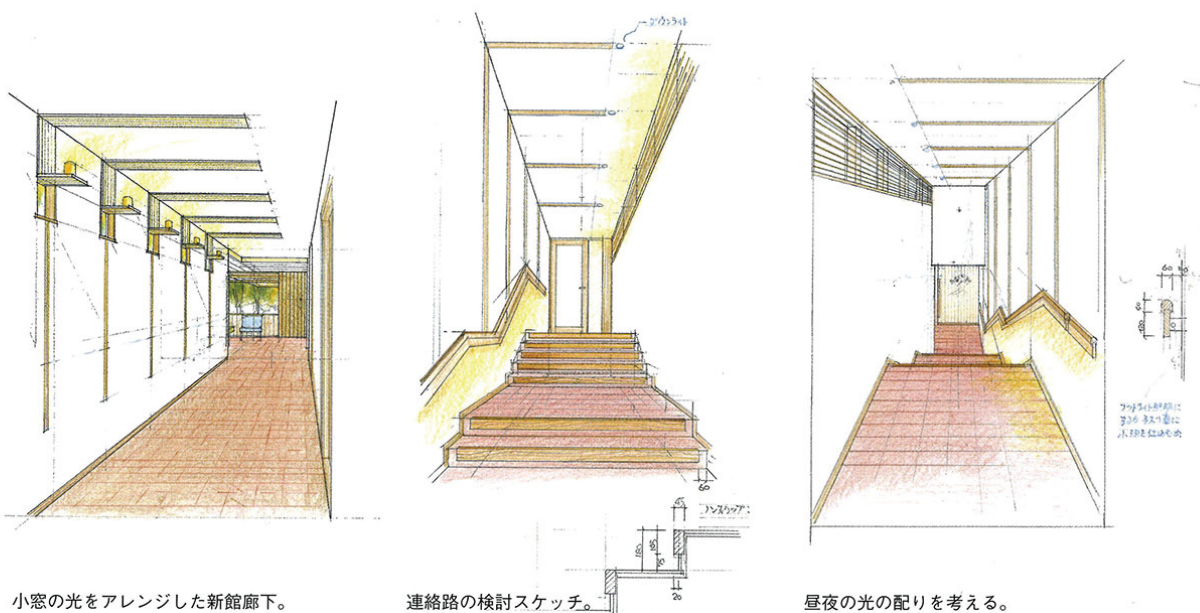
建築が、この環境を損なうこと  
なく、むしろより新鮮な印象が得  
られるよう仲立ちの働きを持つこ  
と。空間による視界の枠取りや開  
き閉じを通して一帯に散在する風  
景の中から隠れた特色を拾い出し、  
そこにもう一つの視界や風景の脈  
絡を紡ぎ出すこと。それが建築の  
果たせる役割だろうかと思いを巡  
らせた。

最初の館は丘地側に建つ。その  
上階の客室からは遠くの山容や森  
の連なりが望まれる。これに対し  
て今回の新館部は敷地内の隠れて  
見え難かった湖沼に添う場所に配  
置し、旧館からの視界を妨げるこ  
との無いよう建屋を低地側に低く  
沈ませる構成を取る。その配置を  
通してこの土地にあるもう一つの  
特色ある風景との接点が生まれる  
ことになった。

こうした環境との関わりを考え



新館の共用浴室。西に向く夕景を頭に浮かべた。内装は不燃規定により塗り壁に変更。



小窓の光をアレンジした新館廊下。

連絡路の検討スケッチ。

昼夜の光の配りを考える。

る上でも、内部のしつらえの大切さはいまでもない。内に安らぎの居場所がなければ、外の風景を感受する心は開かれない。

その点でしばらくの時を過ごす各々の客室のデザインを、それぞれの場所ごとの外部風景との関わりを見据えながら居場所の重心を探り、強く主張することのない自然素材と白を基調として落ち着いたきのある空気感が得られるよう心がけた。

一つ付け加えれば、新しい客室にはそれぞれ居場所の戸外との接点に防虫網で囲んだデッキ空間を設けている。これは旧館での過ごしの経験の中から着想したことで、湖沼沿いに多い虫対策でもあるのだが、きびしい雪の季節を除けば最も気持ちよい場所になったかもしれない。

もう一点書き添えておこう。館内に画家・藤岡冷子さんの何点かの作品を掛けている。そこに描かれているのは、湖面に生む水紋に微風を見、その風のそよぎに季節の訪れを感知する静かな眼差しの世界である。それはこの建築という場の考察で思い描いた視野と深い奥でつながるもののように思う。

福島県

# ホテリ・アアルト

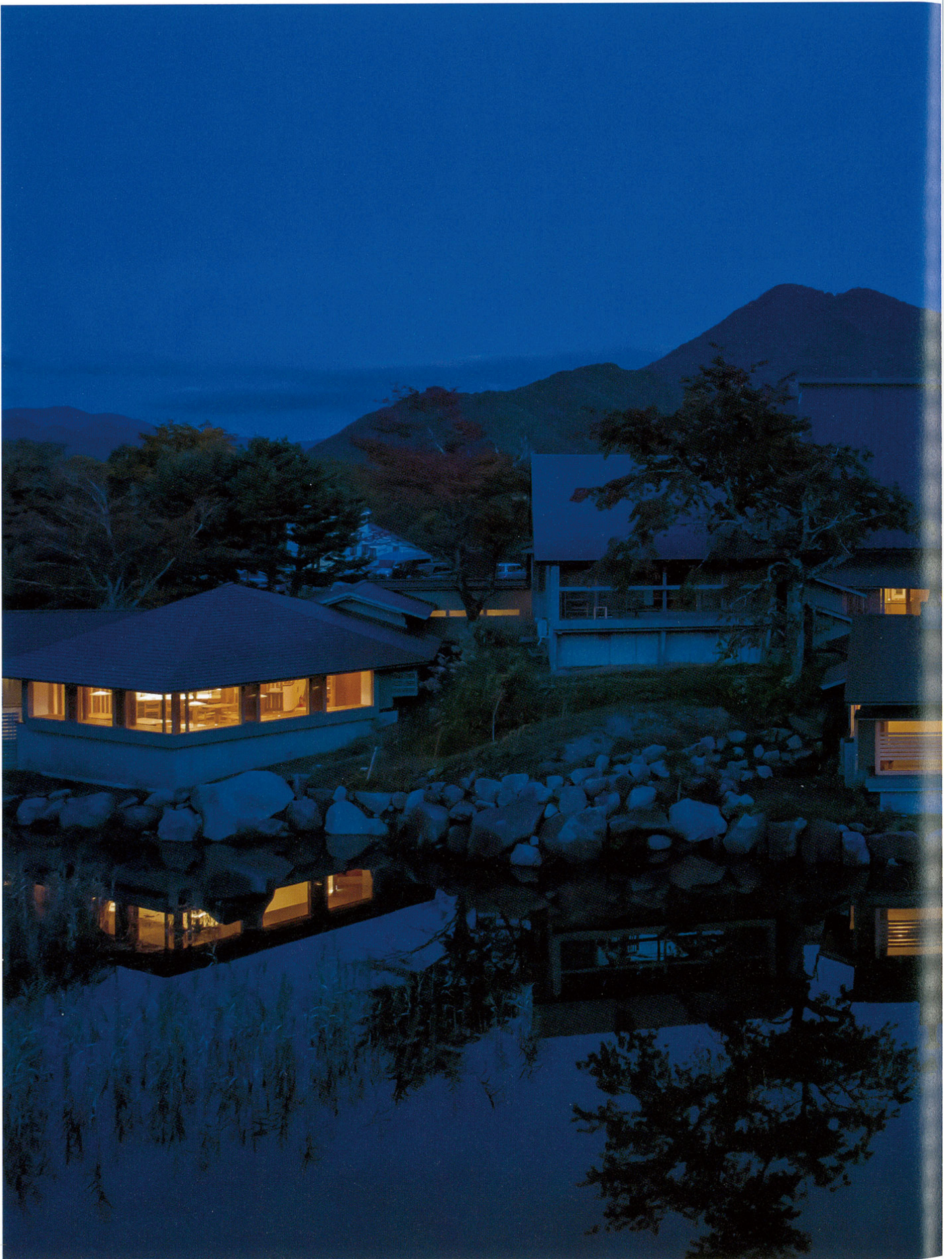
建築家・益子義弘が2009年に保養所を改修して手がけた、小ホテル「ホテリ・アアルト」が、今夏に増築された。  
裏磐梯の自然の中に溶け込むように佇む、安息の居場所を訪ねた。

設計=益子義弘／益子アトリエ 施工=八光建設 写真=畑 拓

*HOTELLI aalto* Fukushima Prefecture, Japan

*Architect : Yoshihiro Masuko / Masuko Atelier / Builder : Hakkou Kensetsu / Photo : Taku Hata*

HOTELLI aalto was extended this summer. This little hotel was designed by Architect Yoshihiro Masuko in 2009, through renovation of a former resort house. We visited the place of peace surrounded by nature of Urabandai.



21 沼から。手前右は新館客室棟、左は新ラウンジ棟。奥に本館（既存館）が見える。



フロントのある本館へのアプローチ。



玄関ホール。奥の窓側にラウンジスペース、手前の廊下を行くと、浴室がある。



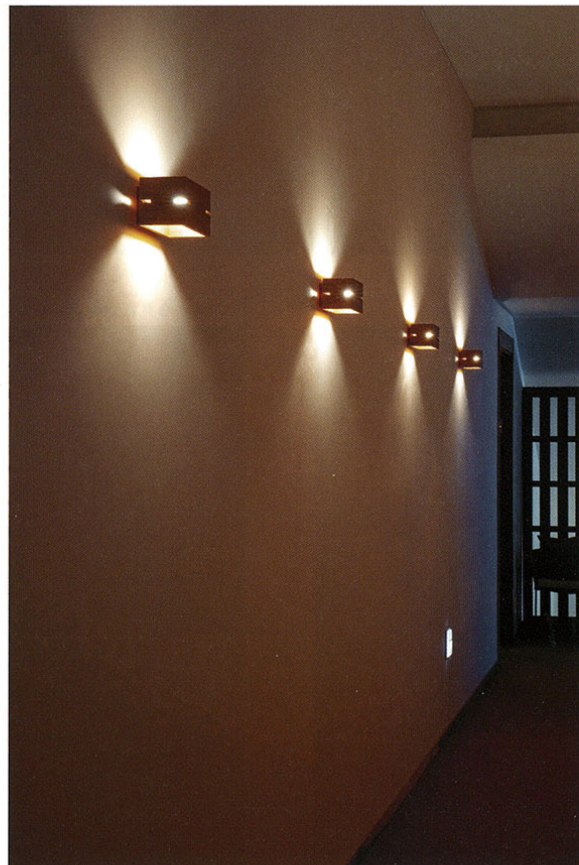


元は地下倉庫だった本館ラウンジスペース。天井高が低かったため、梁のない箇所を折り上げるようにデザインした。



23

2階へ上がる。客室のドアについて小扉は、夜食をサービスするためのもの。



3階廊下。



本館レストラン。暖炉を囲む大きな岩は磐梯山の噴火岩。

北の林から見た建物。手前は本館レストラン。

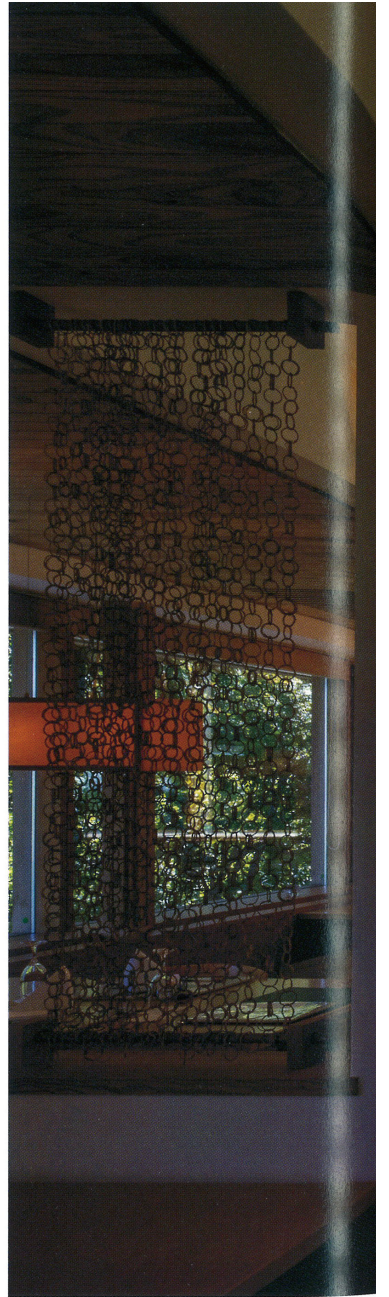


東西の壁に付いたブラケットライト。

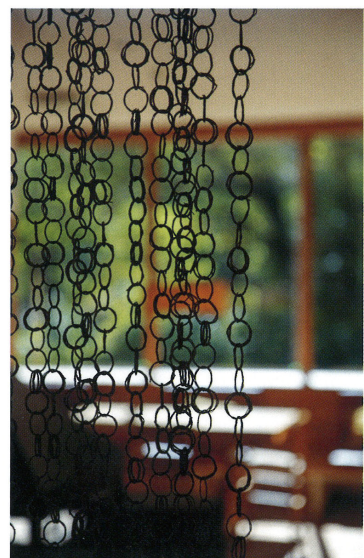




カエデを張ったペンダント照明はオリジナルデザイン。



庭の眺め。



2人掛けの席から。

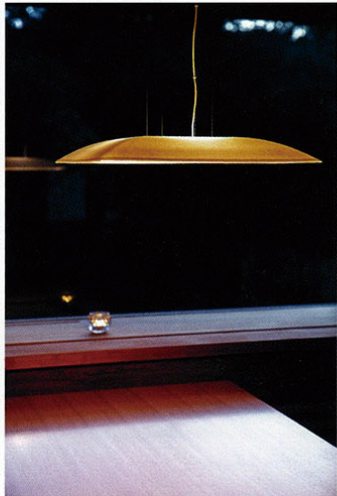




新ラウンジ棟内観。



藤岡冷子さんの絵画。



湖沼に来るサギなど、白い鳥の羽ばたきをイメージしたオリジナル照明。



バーコーナー。



庭からラウンジを見る。



共有部に設けた読書スペース。



新館浴室の隣に配した談話スペース。



上/客室302。元は食堂だった。

右/客室302のバルコニー。



畳の小間を備えた、客室303。窓にはグレアを防ぐ小格子が嵌っている。



客室101の専有浴室からの眺め。



既存館の客室で唯一、湖沼に面している客室101。  
保養所時代は管理人室だった。



本館小屋裏の管理室部を改修した客室201。益子氏のお気に入りの部屋。



湖沼に面した客室105。



木立とせせらぎを愉しむ客室103。



## ホテル・アアルト

所在地：福島県北塩原村大府平

敷地面積：22,491㎡ 延床面積：1,801.87㎡

竣工第一期：2009年3月（工期2007年10月～2008年3月）

竣工第二期：2019年7月（工期2018年9月～2019年6月）

設計第一期：益子義弘、河合俊和、大竹慎太郎

設計第二期：益子アトリエ

（担当：益子義弘、棚橋玄、宗像秀展）+大竹慎太郎

造園計画：山崎誠子

施工：八光建設

構造規模：木造、一部RC造2階建て

主な外部仕上げ：

屋根＝ガルバリウム鋼板横葺き

軒裏＝垂木・野地板化粧現し、キシラデコール塗布

外壁＝杉板押縁、キシラデコール塗布

建具＝木製（ベイスギ、ピーラー）

主な内部仕上げ：

天井＝石膏ボード厚12.5mm AEP、杉板張りCL

壁＝石膏ボード厚12.5mm 2重貼り+珪藻土塗り

床＝サイザルカーペット、レンガタイル（廊下）、

カラマツ、桐、コルクタイル（客室）

設備：

冷暖房＝空冷ヒートポンプエアコン+温水パネルコンベクター

給湯＝セントラル方式 洗面所＝TOTO

浴室＝御影石 便所＝TOTO

照明器具＝オリジナル、パナソニック、ダイコー

建築物物＝ホリ、ミワ、ベスト

家具＝オリジナル、PPモブラー、カンディハウスほか



客室105から。



湖沼に面した新館の浴室。

客室105の専有浴室。

